



学校だより

2月号

～友だちいっぱい 夢いっぱい 未来へ向かって かがやく星の子～

上星川の自慢の場所！

校長 西山 久美子

年明けから全国的に新型コロナウイルスの感染状況が厳しいものとなり、学校でも日々の教育活動や行事について、実施方法の見直しなどの検討を重ねてまいりました。2月以降も、感染拡大の状況により大きな変更や中止をせざるを得ないことも考えられますが、横浜市のガイドラインに則り感染症対策を徹底したうえで、子どもたちにとってよりよい学びの場を作っていきたいと思っております。保護者の皆様には、引き続きお子様の健康観察・毎日の検温報告へのご協力をお願いいたします。

ところで、上星川小学校には「自慢の場所」があります。それは校舎裏にある「野鳥園」と、西門から100mほど進んだ所の「星の子農園」です。星の子農園は、地域の方のご厚意で上星川小の子どもたちのために整備してくださった農園です。どちらの場所も生活科や総合的な学習の時間に子どもたちが様々な活動をしています。



生活科 生き物さがし

野鳥園で、生き物探しに夢中になる子どもたち。草をかき分けバッタを捕まえたり、石の下のダンゴムシを採ったりする真剣な姿は微笑ましくもあります。環境委員会の児童は、野鳥園の花壇で野菜を育て給食で使うという試みもしました。また、星の子農園ではサツマイモや夏野菜を栽培しました。立派なサツマイモや野菜を手にしたときのうれしそうで誇らしそうな子どもたちの表情から、体験で得られる学びの大きさを実感しました。さらに今年度、野鳥園には切株のベンチが2つ設置されました。この切株は、かつて上星川小の子どもたちを見守っていた校庭のくすの木を使っているそうです。形を変えて再び子どもたちを楽しませてくれる切株ベンチも自慢の1つに加わりました。そして今、4年生が星の子農園のプロジェクトを立ち上げ、看板設置などの取組を進めています。自慢の場所とのかかわりはさらに広がりそうです。



切り株のベンチ



4年生の活動の様子

このような教室外での体験を通じた学習では、地域の皆様のご協力をたくさんいただいております。農園の整備、苗の準備、ベンチ設置、また商店街学習やまち探検でのインタビューなど、いつも子どもたちの学びを深める温かいご支援をいただいていることに、改めて感謝申し上げます。様々な形でまちや地域の方とつながることができる上星川の環境こそ最高の自慢です。今後も、上星川のまち全体が子どもたちの自慢の場所であり続けていくことを願い、地域の皆様ともに子どもたちの成長を支えていきたいと思っております。

今年度、栽培活動の苗購入や野鳥園の整備にかかる費用の一部は、「NPO法人 元気な地域人の会（わがまち、保土ヶ谷）の青少年健全育成、文化、防災活動などを支援する特定非営利活動団体」の助成金を使わせていただきました。この場をお借りし、会の皆様に御礼申し上げます。